

# 2

## 基本計画の確認と効果的に伝えるための視点

### ●いのちの縦のつながりを知る

「沖縄こどもの国」は、生物の進化、生態系や遺伝子等の多様性、動物と人との関わり等、長い時間のなかで重ねられてきた、「いのちの縦のつながり」について知る場所とする。

動物展示を中心に、動物たちの種や生態、生息環境等に関する紹介のほか、絶滅または絶滅の危機に瀕している種等、多様な視点で「いのちの縦のつながり」を展開し、いのちが未来へつながれていくことの難しさや不思議さ、大切さを感じてもらう。

### ●いきることの横のつながりをわかちあう

「沖縄こどもの国」は、世界中から多くの人々が集い、動物と同じ空間のなかで時間や体験を共有することで、多様ないのちのあり方や価値観を発見し、「共に生きる」ことを感じ、理解する場所とする。

人が日々の営みの中で交流しつながりあって生み出してきた食や風習、音楽等の多様な「文化」についても展開することで、「横のつながり」を感じ、わかちあうことができるようにする。

### ●縦のつながりと横のつながりの融合と深化

「いのちの縦のつながり」と「いきることの横のつながり」の考え方を融合し深化させ、あそびや多様な体験をとおして、感じる心、気づく力、考える力を身につけることで、新しい“つながり”を生み出していく人材を育成する魅力ある施設を目指す。

— つながりを感じ、生み出す場所 —

# ツナガリウム

基本理念である「ツナガリウム」は、沖縄こどもの国が目標とする日本一ユニークな施設としての考え方である。

従来の動物園・科学館の施設では、情報と知識を伝達する際に、施設側主導で課題とその正解の提示が行われており、来園者が受動的になっているケースが見受けられる。

沖縄こどもの国では、「ツナガリウム」の基本理念に沿って、来園者が自ら感じ、考え、つながりをうみだしていく行動を促すことを目指す方向性とする。

従来の動物園・科学館

沖縄こどもの国が目指す方向性

設定された動線・提示される課題



一方的に伝える・文字で伝える



情報・知識を伝えようとする



来園者が自ら足を進める世界



能動的・直観的に感じ取っていく



感覚として感じ取らせる

持つべき視点

いきることの大切さと世界を見つめる感性を養う人材の育成と、来園者を包み込む魅力ある世界観の創出

「こどもゴコロの視点で伝える」



こどもゴコロフィルター

基本理念をより効果的に伝えるための「こどもゴコロの視点で伝える」という持つべき視点をふまえ、デザインガイドラインの基本方針として、次の4つを挙げる。

## なぜ？を感じさせる

自分以外のいのちに疑問をもち、またその疑問をだれかに投げかけることで、つながりをうむ。そのきっかけとなる「なぜ？」を感じさせる仕組みを作り出す。

## まねることで感じさせる

まねることを通して、自分との能力の違いに気づくことができる。まねをしてみたいくなる装置や働きかけを行う展示。

## シーンを感じさせる

情景や光景を意図的に見せるポイントを計画し、各ゾーンに配置していく。そのポイントに立つことで、心理変容を促し、記憶にきざみ込むような印象的な風景を演出する。

## 直観的に感じさせる

説明を聞いたりしなくても、直観的に感じ取ることができ、沖縄こどもの国ならではの流儀の中で気づきや感動を得ることができる展示。